

10th
Anniversary

箱根写真美術館

Hakone museum of photography

おかげさまで開館 10 周年

昭和・箱根観光と写真の関わり

箱根写真美術館所蔵 遠藤貫一の仕事より I

会期：6月26日（水）～7月16日（月祝）

会場：箱根写真美術館 2階展示室



展覧会チラシ

【作家紹介】

遠藤 貫一（えんどう・かんいち）

1933年(昭和8) 東京生まれ。
幼少期を宮城県で過ごし、現在の登米市にある『あおぞら写場』で修行。上京後、神田神保町の写真館にて勤務。
昭和29年より箱根小涌園写真部の仕事に従事。昭和35年箱根フォトサービスセンター設立。営業写真を中心に活動する。
2002年4月から2007年3月まで箱根写真美術館の館長をつとめる。
現箱根写真美術館名誉館長。

【関連事業】

- 営業写真家・遠藤貫一による解説（ギャラリートーク）
毎週土曜日、日曜日、祝日
各日 13:00～/15:00～の1日2回

箱根は明治の文明開化以降、観光地として著しい発展をしてきました。馬車鉄道から電気鉄道へ、人力車道の開削から明治後期には国道整備へ、そして大正8年には箱根登山鉄道が強羅まで開通、そのころになると遊覧バスが多い時で1日数百台も乗り入れるなど、多くの観光客を集めていたといえます。しかし、第二次世界大戦が勃発、戦時中、箱根の観光業は暗黒の時代を迎えることとなります。そして、終戦。

本展では、戦後の経済成長を背景として大衆レジャーブームを迎えた箱根の観光業の賑わいを営業写真家・遠藤貫一（えんどう・かんいち）の仕事を通して、展示構成致します。

遠藤貫一は昭和8年生まれ、宮城県で写真技術を学び上京、神田・神保町の写真館に勤める。その後、高度経済成長期における温泉観光の定番として一世を風靡する箱根小涌園写真部の仕事を紹介され、昭和29年以降箱根で営業写真家として活動することになりました。

小涌園は団体客を主体として目覚ましい発展を遂げた一大温泉リゾートであり、箱根はこうした大きな旅館やホテル、レジャー施設を中心に人々の生活が形づくられたといっても過言ではありません。

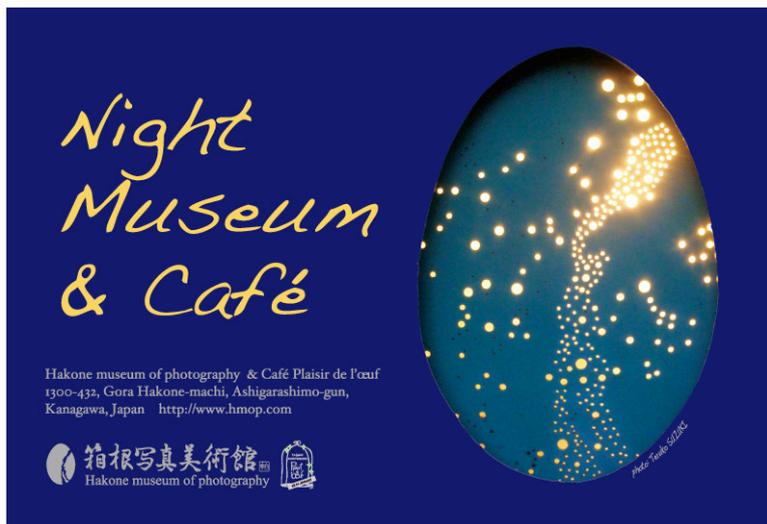
遠藤貫一本人のインタビューから、当館が所蔵する写真機材や資料から、また日本の高度成長期の生活史やカメラ製造技術の進歩から、当時の様子を御覧いただきます。

【展示点数】 写真作品約 20 点（予定）

スタジオ再現展示 1 点 / 当時の使用機材 / その他資料等

PRESS RELEASE

Hakone museum of photography



6月16日(土)～8月25日(土)の
毎週土曜日限定!

ナイトミュージアム
夜9時までOPENします
(最終入館は30分前まで)

箱根写真美術館の2階展示室床面には、
天の川を模した穴が開いています。

七夕もかかるこの季節、天の川を眺めながら、
ゆっくりとアートをご鑑賞いただければと思います。

併設カフェも同時営業、17時以降の限定メニュー
として、ワインセットなどを販売します。



併設カフェ プレジール・ドゥ・ルフから季節便り

★紫陽花ケーキ ¥600

(発売期間:7月下旬まで**期間限定**)

クリーミーなレアチーズケーキをブルーベリーと合
わせて、箱根を彩る紫陽花に見立てました。

★7月21日(土)にカフェオープンから6周年にな
ります。アニバーサリープレート(ドリンク付)¥1000
も発売予定です。



[会場/問合せ先]

箱根写真美術館

神奈川県足柄下郡箱根町強羅 1300-432

電話 0460-82-2717 FAX: 0460-82-2717

URL <http://www.hmop.com>

e-mail info@hmop.com

開館時間: 10:00-17:00

会期中、毎週土曜は 21:00 まで開館

(最終入館 20:30)

入館料: 大人 500 円(300 円)

()内は小中学生※未就学児童は無料

休館日: 火曜休館(祝日を除く)

[主催等]

主催: 箱根写真美術館開館10周年記念事業実
行委員会

協力: 富士屋ホテル株式会社

箱根写真美術館 館長遠藤桂が撮影のコツを伝
授! 箱根 PHOTO さんぽスタートします。

1回目は6月24日(日)紫陽花 PHOTO さんぽ

PRESS RELEASE

Hakone museum of photography